



蒲小だより

未来を拓く児童の育成

9月1日、2学期スタート！

文責 校長 山本 智文

42日間の長い長い夏休みが終わり、学校に子ども達の元気な声が戻ってきました。今年の夏休みも、暑い日が続きましたが、充実した夏休みを過ごすことができたでしょうか。今年も、行動制限のない休みとなりましたので、これまで行けなかったところに行ったり、会えない人に会ったりして思い出に残る休みを過ごせたのではないのでしょうか。



さて、9月1日の2学期の始業式では、私から、子どもたちにがんばってほしいことを2点お話ししました。

今日は、みなさんに校長先生から2つのお話をします。まず、「3つの『り』」についてお話しします。「3つの『り』」、わかりますか？ヒントは、ことばの最後に「り」がつきます。わかる人？1つ目の「り」は、「かかわり」です。2つ目は「やくわり」、3つ目は「がんばり」です。この3つの言葉には、終わりに「り」という文字がついてます。そこで、覚えやすいように、3つの「り」と名づけました。

「かかわり」とは、課題や問題に自分から進んで取り組むことです。「やくわり」とは、自分の役割を考えてしっかりと果たし友達と協力することです。「がんばり」とは、目標や課題、自分の役割を最後までやり抜くことです。

2学期の大きな行事の1つに、「学習発表会」があります。「学習発表会」は、学校のみんなが力を合わせて1つになり学んだことを表現する発表会です。校長先生は、皆さんが、練習の成果を発揮し、全力を尽くして表現してくれることと期待していますし、今から、心がワクワクドキドキです。皆さんがどんな力を発揮して表現してくれるのか、校長先生はもちろん、蒲刈小学校の先生方やお家の方たち、地域の方々が楽しみに期待されていることと思います。

さて、今日は、もう一つお話をさせてください。

この人はだれでしょう？知っている人？

そうです、陸上競技選手の「田中希実さん」です。

ついこの前まで、ハンガリーのブダペストで世界陸上が開催されました。この大会で、田中選手は「1500m」と「5000m」の競技に出場しました。1500mでは残念ながら結果は残せませんでした。5000mでは衝撃の日本新記録を出しました。その時のスポーツ新聞に掲載された記事を紹介します。



見出しは「田中希実、5000m決勝8位入賞の快挙！日本人26年ぶり」です。

「トラックを12周半する5000メートル。4000メートルを3番手につけ、最終盤の勝負へ。残り1周は8,9番手からラストスパート。田中選手は、一時6番手まで上がり、最後は8位でゴールを駆け抜けた。これまでの日本記録を15秒近くも縮める衝撃の日本新記録。涙を流した昨年の悔しさを晴らすように力走した。レース後の中継局インタビューでは、田中選手は『牽制(けんせい)が入ったり、ペース変動が激しいレースだった。その中で脚を削り取られることなく、ラスト1周まで食らいつくることができたので、自分自身に

ワクワクしながら最後まで走り抜けられた。』と手応えを感じた様子だ。続けて、解説の高橋尚子さんから『今までたくさん苦しいことがあり、涙を流したこともある。その経験がどう生きましたか?』と問われると、田中選手は「やっぱり去年のオレゴン（前回の世界陸上）はむなしくて悲しくて、何の悲しみかわからなかったけど、その悲しみが怒りに変わって、この1年間努力してきた。でも、やっぱり怒りだけじゃなく、自分自身への許しが必要なんだと、この大会で初めて気づくことができた。」と振り返った。さらに、声を震わせながら『それを気付かせてくれたのはいろんな支えがあったから。私一人じゃここまで来られなかったので、感謝の気持ちでいっぱいです。』と目に涙を浮かべ、支えてくれた人たちへの感謝を述べた。」

1学期の終業式で、校長先生の好きな言葉、「努力はうらぎらない」を話したことを覚えていますか。5・6年生の自転車大会に向けての頑張りについて話をしました。田中選手の言葉「何の悲しみかわからなかったけど、その悲しみが怒りに変わって、この1年間努力してきた。」という言葉がありましたね。前回の世界陸上オレゴン大会から1年間、死に物狂いで努力し続けた結果、練習し続けた結果、今回の素晴らしい結果を生み出したのです。

児童のみなさん、この2学期を実り多いものにし、皆さんがより一層大きく成長して欲しいと願い、今日は、「3つの『り』」と「陸上選手の田中希実さん」のお話をしました。

1年間で一番長い2学期です。蒲刈小学校のみなで、「**かかわり**」、「**やくわり**」、「**がんばり**」の『**3つの「り**』』を大切にしていきましょう。そして、2学期の終わりには、蒲刈小学校の全員が「みんなと力を合わせてよくがんばったな。」「自分は自分の目標に向かって努力し続けることができたな。」と振り返り、自分たちの頑張りをたたえ合っていきましょう。

それでは、2学期の皆さんのがんばりに期待します。

本校教職員は、2学期の子ども達の生き生きと活動する姿を思い浮かべながら、夏休みの間準備をしてきました。みんなでより一層伸びていける学期にしていきたいと思えます。保護者の皆様、蒲刈町・下蒲刈町の地域の皆様、2学期も引き続き「蒲刈小学校の子どもたち」を、「蒲刈小学校」をよろしく願います。



授業風景(9月1日)

第2学期の始業式の後、子どもたちは各教室に帰り、担任とともに2学期の良いスタートがきるよう、学級開きを行いました。各担任は、子どもたちが2学期を実り多いものにできるよう、児童一人一人が具体的な目標を設定できるよう子どもたちに働きかけていきました。



1年生



2年生



3・4年生



5・6年生



オレンジ1組



担任からのメッセージ！

一輪車贈呈式(9月1日)

1学期、大休憩と昼休憩、放課後と汗びっしょりになりながらも一輪車に乗り続けている子どもたちの姿を多く目にしました。しかし、本校の一輪車は古くて壊れていたり、タイヤが擦り減って乗れない状況になっていたりする一輪車が多くありました。これでは、子どもたちが一輪車に乗りたくても思う存分に乗れないと思い、「公益財団法人 日本教育公務員弘済会広島支部の『一輪車贈呈事業』」に応募することにしました。企画書を作成し、書類選考の結果、5台いただく運びとなりました。去る、8月25日に本校にて「一輪車贈呈式」が行われました。これを受けて、9月1日の始業式終了後、「一輪車寄贈」の紹介を行いました。

子どもたちは、さっそく休憩時間に新しい一輪車を手に持ち、グラウンドを目指しました。そして、我先にと一輪車に乗り、グラウンドを駆け抜けていきました。

私は、新しい一輪車に乗り、勢いよく飛び出していく子どもたちの後姿を見つめながら「よかったなあー。」とうれしく思いました。次は、何にチャレンジしようかな...



贈呈式の様子



一輪車寄贈の紹介



一枚の絵「ゴジラ」



原田 隆さん(元 豊浜中学校教師)から、「8月6日の広島平和記念式典に向け、「ぜひ、自分の描いたゴジラの絵を通して平和の大切さについて子どもたちに考えてほしい。」という依頼を受け、蒲刈小学校玄関前の掲示板にゴジラの絵を掲示することにしました。みなさんはゴジラがどのようにして誕生したかについてはご存じですね。

子どもたちは、このゴジラの絵に秘められた作者の

願いをよみとり、原田さんに自分たちの思いをしたためたお手紙を渡すことにしました。

子どもたちは、7月20日に全校で「平和学習」に取り組みました。(先月号で紹介)この平和学習を踏まえ、子どもたちの目に「一枚のゴジラの絵」がどのように映ったことでしょうか...

原田さんのお礼の手紙の中に次のような言葉が添えられていました。「ぼくの絵を見てくれてありがとう。この前、蒲刈小学校の先生から絵を返してもらった時、みなさんの絵を見て書いてくれた感想文も受け取りました。絵の中の細かいところまで見てくれていてとてもうれしかったです。(省略)みなさんは今回ゴジラという怪獣がどのように生まれたのか知ったと思います。初めて知ったことから興味をおぼえたら、『平和や戦争、核兵器について自分ができることは何だろう。』と考え、体を動かしてできることをやってみる。これを難しい言葉で言うと、『知る=知識』、『考える=想像』、『動く=行動』と言えらると思います。ぼくは、皆さんには、このことを繰り返しながら、大人として成長していったほしいと思っています。(省略) ※お手紙は2階掲示板に掲示中。

オーケストラ鑑賞教室～くれリンクアップコンサート～



8月30日(水)の午後、5年生6名が呉市教育委員会主催の「オーケストラ鑑賞教室～くれリンクアップコンサート～」に参加しました。コロナウイルス感染症対策に係り、4年間実施できませんでしたでしたが、今年度再開することになりました。6月に課題曲のテキスト

トが配付され、当日に向けて猛練習が始まりました。「歌(3曲)」「リコーダー演奏(1曲)」「リズム(2曲)」「鑑賞曲(楽器の種類とその音色)等、課題は山積みでしたが、限られ期間の中で子どもたちは粘り強く練習に取り組みました。途中で投げ出すこともなく、一生懸命にチャレンジし続ける子どもたちの姿に心が熱くなりました。改めて、何事にも一生懸命チャレンジすることの大切さを教えてくれた子どもたちでした。良い思い出になりましたね...

「写真」って何だろう？

9月4日(月)5・6年生が5・6校時に写真家「藤岡 亜弥さん」を講師にお招きし、「写真」についてその誕生の歴史や写真の存在意義、写真の見方・取り方等について学ばせていただく時間をいただきました。

藤岡さんの母親の実家は「向」で、幼少期にはよく向に帰られていたそうです。県民の浜や物見岩、西泊観音等に出かけられ、蒲刈の自然を満喫していたそうです。

授業が始まり、プレゼンテーションの一枚目がテレビ画面に映し出されました。そのページには「写真って何だろう？」という一文が書かれていました。藤岡さんから「写真って何でしょう？」と問われた子どもたちは一斉にキョトン...何をどう答えたらいいのか...その後、「カメラの誕生」の歴史について話が進んでいきました。徐々に子どもたちも藤岡さんの世界に引き込まれていきました。

6時間目は、夏休みに子どもたちが撮影した写真について一枚一枚「良さ」や「工夫点」等について指導していただきました。

蒲刈小学校では、「ふるさと学習(生き方学習)」に力を入れています。年間を通して、ふるさとの学習材であるヒト・コト・モノに出会わせていくように計画し学習を展開しています。これらの学習を積み上げていくことで、子どもたち一人一人が自分の生き方に繋げていけるよう企画しています。子どもたちの将来を見据え今後も取組を継続していきます。

